2015

# 厚木市制60周年記念誌

NEXT STAGE

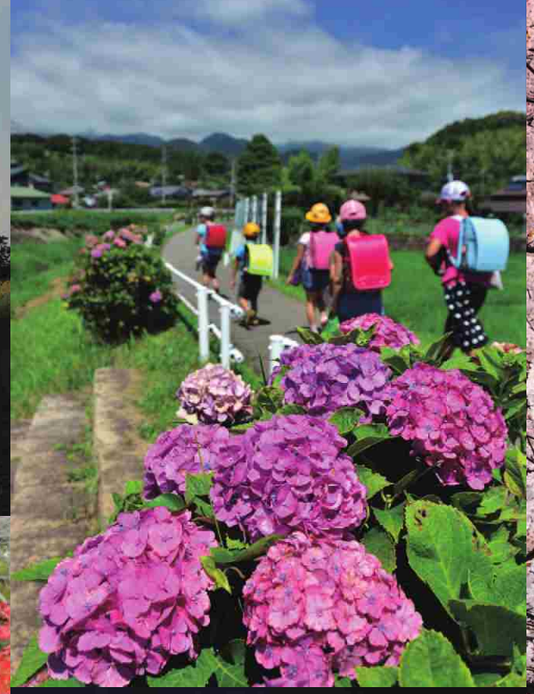
明日へのかけ橋

厚木美景選

# 光輝く未来へ

## To Bright Future

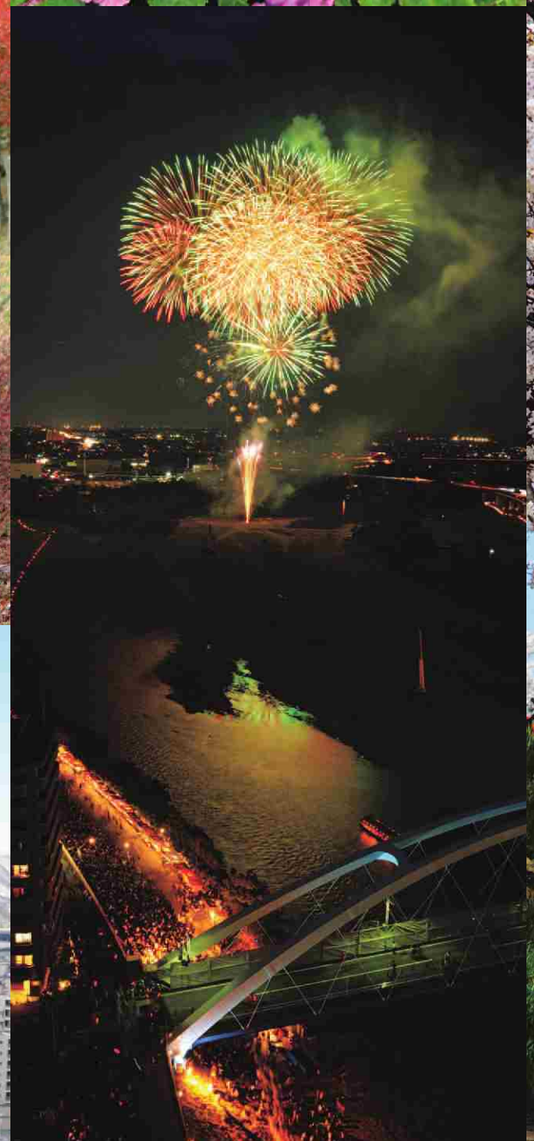
The great river and fertile nature always support our lives.
Dreams and hopes cross the bridge to future with change and evolution.
Beautiful scenery, greenery and river in every season of Atsugi tell us that the beauty and richness of nature should be preserved.



大いなる河と豊かな自然は
変わることなく
人々の暮らしに寄り添い続ける
未来への夢と希望は
変化と進化を遂げながら
明日へかけ橋を渡す

この美しさを、永遠に
この豊かさを、未来へ

四季折々、山紫水明…
厚木を包むさまざまな美景は
そう私たちに語りかけています



NEXT STAGE
明日へのかけ橋

CONTENTS


厚木美景選
光輝く 未来へ …… 2

NEXT STAGE
明日へのかけ橋 …… 6

市民リポーターが総力取材
まちに活力を吹き込む人々 …… 16

厚木市進化の60年記 …… 20

未来をつくるあつぎの政策
第9次厚木市総合計画
「あつぎ元気プラン」 …… 28

ATSUGI MOVEMENT
進行するビッグプロジェクト …… 33

未来へ繋げる人々 …… 34

ATSUGI MOVEMENT
さがみロボット産業特区、あつぎ …… 39

地域コミュニティ …… 40

世界へ羽ばたく挑戦者
友好都市・防災姉妹都市 …… 48

生きる力を育む学び舎 …… 50

スペシャルメッセージ
～明日へのかけ橋～ …… 54

ATSUGI MOVEMENT
あつぎ舞台アカデミー …… 58

厚木イラストマップ …… 59


## あつぎ市民ふれあい都市宣言

厚木市は、先人のたゆまぬ努力により、自然と調和する都市として発展してきました。そして今、少子高齢化の進展や価値観の多様化により、人と人との関係が変化し、市民相互の絆がより大切になっています。

私たち一人一人が地域に関心を持ち、日頃から助け合い、市民協働により、身近な課題に取り組むことで、笑顔で暮らせる安心・安全なまちをつくることができます。

家庭や地域で思いやりの心を育み、ふるさと厚木を世代を超えて愛し、誇れるまちとするため、ここに「市民ふれあい都市」を宣言します。

**ふれあいの家庭づくり**
家族との絆を深め、人を思いやる豊かな心を育み、ぬくもりのある「心ふれあう家庭」をつくりましょう。

**ふれあいの地域づくり**
地域に暮らし、働き、学ぶ中で、地域活動の輪を広げ、みんなで支え合う「心ふれあう地域」をつくりましょう。

**ふれあいのまちづくり**
人とのつながりの輪を広げ、希望に満ちた、未来に輝く「心ふれあうまち厚木」をつくりましょう。

## Working with the Citizens toward the Bridge for Tomorrow

Atsugi was born as the 13th city in Kanagawa Prefecture on February 1st, 1955. Sixty years have passed since then. When the city was established, the population was about 31,000 but now has reached 225,000 and has become one of the most prominent cities in the prefecture.
Atsugi City, which has been raised and supported through the passion of our predecessors, is rich in nature, history, culture and the affection of its people.
We published this issue to mark another new step toward bright future with all of you through looking back on history, rediscovering the blessings of nature and introducing people enjoying activities. We hope you can realize the beauty of our city.
On Atsugi Municipal Commemoration Day, February 1st, we emphatically proclaims that "Atsugi City always communicate with our citizens" to make our city that citizens love and are proud of in every generations.
We will accomplish the vision of "Atsugi, energetic city of creativity, collaboration and exchanges" of "Atsugi Genki Plan".
Your energy serve as the driving force of development and the energy of civic collaboration is the bridge toward the future.
Go forward into the bright future together!

Tsuneyoshi Kobayashi
Mayor of Atsugi City

市長
あいさつ

## 市民協働の力が明日へのかけ橋に

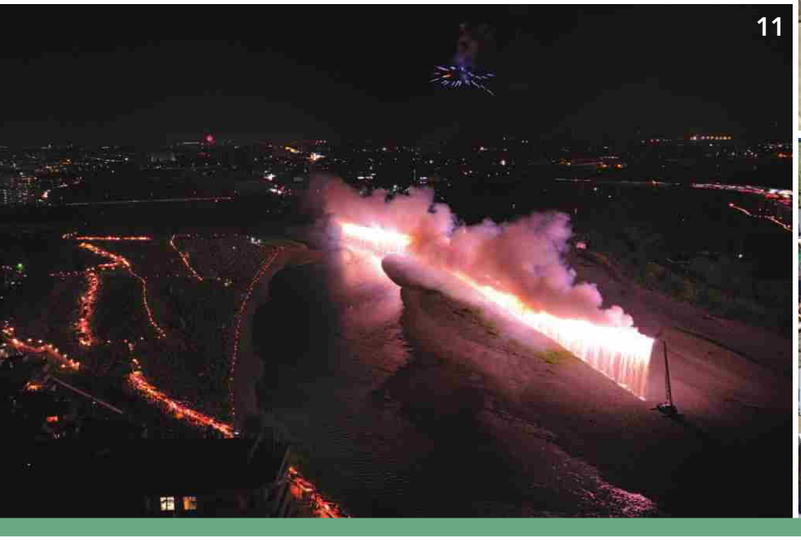
昭和30年2月1日、県下13番目の市として、私たちのまち厚木市は誕生しました。そして今年、60周年という記念すべき年を迎えました。市制がスタートした当初は人口3万1000人であったまちが、今では22万5000人を超える県内有数の都市へと発展を遂げてまいりました。

多くの先人の皆さまが情熱を込めて育ててこられた厚木市は、豊かな自然や歴史、文化、そして人々の愛情があふれる全国に誇れるまちです。この記念誌は、そのふるさと厚木の美しい姿や生き生きと活動する人々、そして、これまでの60年の歴史を振り返り、光輝く未来へ向けた新たな一歩を市民の皆さまとともに力強く踏み出すために作成しました。この機会にあらためて、私たちが暮らすまちの魅力を感じていただければ幸いです。

市制記念日である2月1日には、ふるさと厚木を世代を超えて愛し誇れるまちとし続けるため、「あつぎ市民ふれあい都市宣言」を全国に向けて発信しました。人と人とのつながりの原点を見つめ、温もりあふれるまちづくりを目指し、総合計画「あつぎ元気プラン」に掲げる将来都市像「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市あつぎ」の実現をより確実なものにしてまいります。

まちづくりの原動力は、市民の皆さまの力であり、市民協働で生み出される力は、明日へのかけ橋です。光輝く未来へ向け、みんなで歩んでいきましょう。

厚木市長　小林 常良



# 厚木市制60周年カウントダウン事業

2015年2月1日の厚木市制60周年をお祝いする機運を高めていこうと、
カウントダウン事業が市内各地で行われました。
祭りやスポーツ、市民参加型の催しなど、多くの参加者で盛り上がりました。

**Countdown Project**

We implemented the Countdown Projects throughout the city to celebrate the 60th Anniversary of Atsugi Municipality, on February 1, 2015. We enjoyed them including festivals, sports and community events with many people.

**1. あつぎ飯山桜まつり**：庫裡橋から飯山白山森林公園へと続く飯山観音参道や桜の広場は、毎年満開の桜が咲き乱れます。市制60周年を記念し、歌や踊りなど、自慢のパフォーマンスを披露する桜のステージを開催。女性だけで担ぐさくら輿や飯山白龍太鼓、白龍の舞の披露など、たくさんの催しで盛り上がりました　**2. 緑のまつり**：花や緑とふれあう催しなどが実施され、多くの来場者でにぎわいました　**3. かながわフードバトル in あつぎ**：県内のおいしいグルメが集い、ご当地グルメ神奈川県No.1を決定　**4. 市制60周年カウントダウン**：たくさんの市民や厚木にゆかりのある著名人が市ホームページで100日前からカウントダウンをしました　**5. あつぎ子ども議会**：厚木市議場で、小学5年生から中学3年生までの29人が議員となり、市長などへ一般質問を行いました　**6.NHK のど自慢**：10年ぶりに厚木で開催されたNHK のど自慢。文化会館大ホールには1400人以上が詰めかけ、出場者の歌声に大きな拍手を送りました　**7. 石彫モニュメント寄贈**：市制60周年の記念に「あつぎ素敵美術館をつくる会」の皆さんが石彫モニュメントを市に寄贈　**8. かなキャラ大集合！**：市マスコットキャラクター「あゆコロちゃん」をはじめ、県内の各地域のキャラクターが大集合　**9. さつきまつり**：さつき盆栽の展示・即売、ステージ・ストリートパフォーマンスなど、イベント盛りだくさんで開催　**10. あつぎジャズナイト**：プロ・アマチュアミュージシャンたちによる、本格的なジャズライブが無料で楽しめるイベント　**11. あつぎ鮎まつり**：厚木の夏を彩る市内最大のイベント。大花火大会では、市制60周年を記念した県下最大級の全長500m に及ぶナイアガラが登場。ダンスイベントや鮎のつかみ取りなど、2日間で70万人もの人出でにぎわいました

NEXT STAGE 明日へのかけ橋

厚木市民朝市

夕焼け市

夢未市

イチゴ狩り

ブドウ狩り

ナシのもぎ取り

## 地産地消

## 味覚狩り

### あつぎ OEC フード

厚木市には、コンテストなどで入賞した優れた食品や、古くから市民に愛され続ける食品が数多くあります。こうした魅力ある食を市では「あつぎ食ブランド（愛称：あつぎOEC フード）」として認定し、広くPRしています。

地ビール

厚木のとん漬

ウインナー

厚木シロコロ・ホルモン

厚木の鮎

地酒

鮎の塩焼せんべい

愛甲三郎豆腐でんがく

からすの卵、石臼胡桃、楓香

三豆一穀

かぼすゼリー

### 「厚木はおいしい食べ物の宝庫」

昭和37年に飯山の農家に嫁ぎ、養豚業などに携わってきました。今では、自分で育てた大豆を味噌にし、厚木名物の「とん漬」も作っています。

厚木は、山や川など豊かな自然に恵まれ、おいしい食材が育ちやすい環境にあります。直売所や朝市、夕焼け市など地場産の食材を手に取れる場所もあります。これからも市民の皆さんには、地元で作られた安心安全でおいしい食品を食べていただきたいと思っています。

2013年にオープンした体験型市民農園「飯山楽菜園」も好評です。野菜作りを楽しむことで、多くの人に農業の魅力が伝わるとうれしいです。

農業者 **臼井 スミ子**さん

# 山と川の恵みにあふれる、厚木ならではのおいしさ

風味豊かな「鮎料理」や人気の果実狩りなど、自然の恵みが楽しめる、厚木。
ご当地グルメ「厚木シロコロ・ホルモン」など、
厚木ならではのおいしさが盛りだくさんです。

**Food**

In Atsugi, you can enjoy natural blessings such as “Ayu Cuisine” and popular fruit picking. There are many delicious dishes such as “Atsugi Shirokoro Hormon” which is popular among local people.

6

7

1

4

2

8

5

3

### げんき！ きらめき！ だいすき！ あつぎ60

父から市制60周年のキャッチフレーズを募集していることを聞いて応募しました。キャッチフレーズは、テレビ番組にゆるキャラが出ているのを見ているときにひらめいたものです。自分の提案が採用された時はとてもうれしかったです。学校でも表彰されて、友達も喜んでくれました。ラッピングバスなどで記念のロゴを見かけると、今でもうれしい気持ちになります。

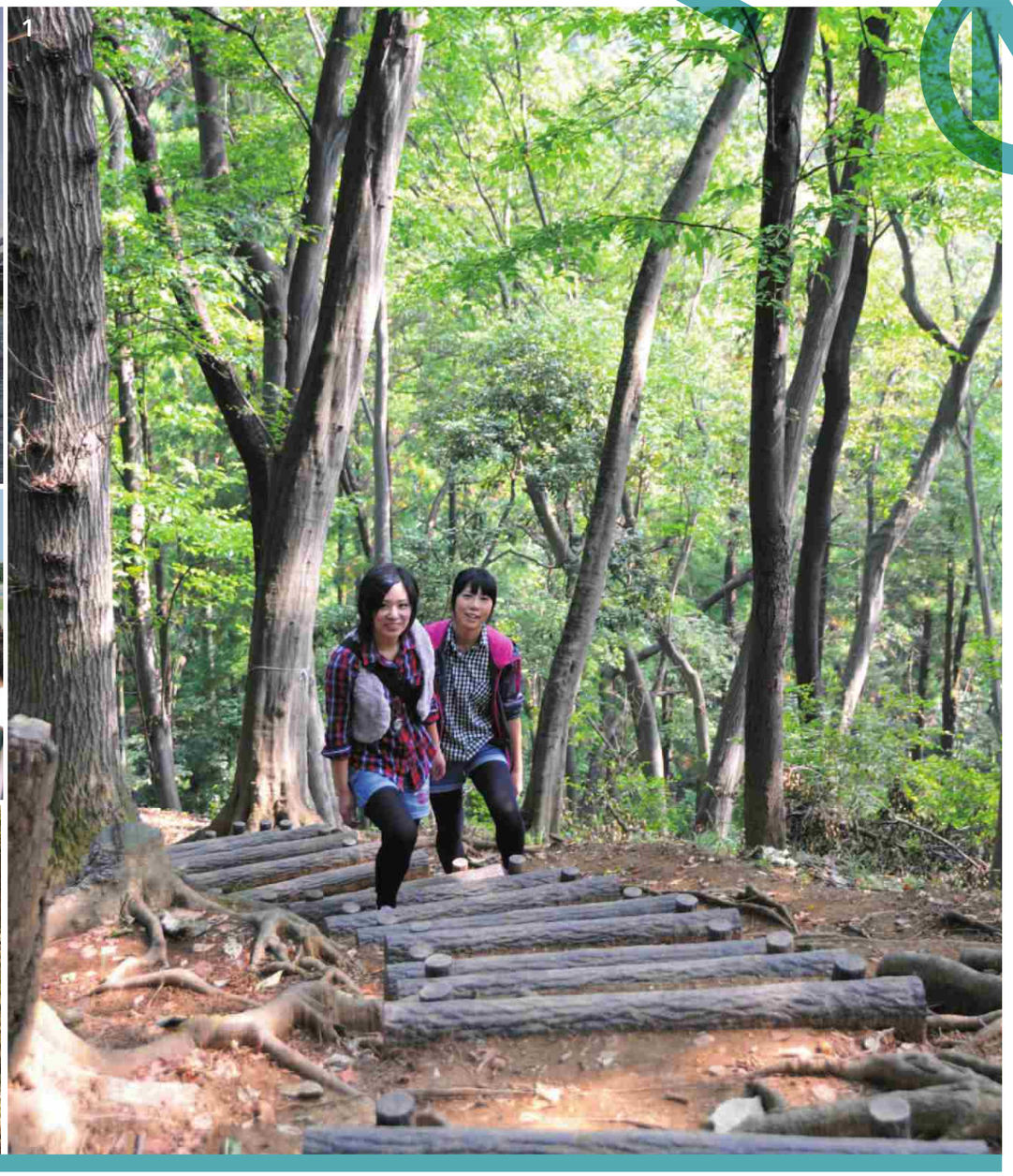
私は、都会も自然もある厚木が大好きです。県外などからもたくさんの人に来てもらい、厚木の良いところを知ってもらいたいです。

キャッチフレーズ提案者
**小久保 里咲**さん（毛利台小6年）

**1. あつぎウインターイルミネーション**：暖かみのある約5万球のイルミネーションが本厚木駅前を彩りました　**2. 新あつぎ市民健康体操**：市民の健康保持・増進のため、神奈川工科大学の協力を得て愛称名「あゆコロちゃん体操」を制作　**3. 市民文化祭**：市民の文化、芸術の祭典として、芸能音楽発表、文化作品展などが実施されました　**4. 市民芸術祭**：あつぎ市民合唱団と厚木交響楽団によるモーツァルト「レクイエム」。公募により結成したあつぎ市民合唱団200人が厚木交響楽団の演奏で合唱を披露　**5. あつぎミュージックフェスティバル**：あつぎミュージックフェスティバル新人発掘オーディションで大賞に輝いた国丸リサさんがメジャーアーティストと共演。国丸さんは配信デビューが決定　**6. にぎわい爆発！あつぎ国際大道芸**：国内外から一流のパフォーマーを招いて開かれた県内最大級の大道芸イベント。本厚木駅周辺でジャグリングやアクロバットなど息をのむようなパフォーマンスが繰り広げられました　**7. 市制60周年記念ラッピングバス**：市の60歳の誕生日をお祝いするため、バースデーケーキに見立てたバスが完成。パティシエ姿のあゆコロちゃんが描かれたバスが市内を走ります　**8. あつぎマラソン**：市内最大のスポーツイベント。約2000人のランナーが秋の厚木路で健脚を競い合いました

3

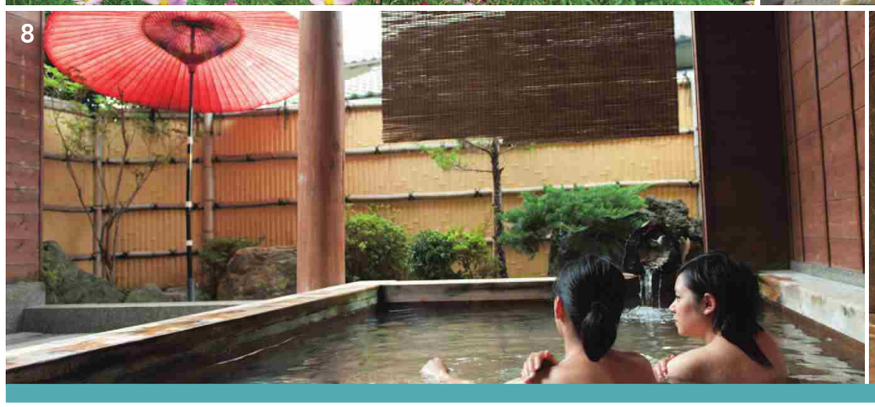
2


1

4

7

5


8

6

## 厚木の鮎に親しめる場を

厚木鮎つかみ取り組合としては約20年ぶりの復活となる、鮎のつかみ取りと塩焼きのイベントを2014年に開催しました。厚木のシンボルでもある鮎に触れて食べられる場をこのまちにつくりたいと思い準備を進めてきました。

夏休みの土・日曜と祝日に開催したところ、市外県外からも含め約800人もの参加がありました。大人の方は童心に返り、子どもたちの多くは初めての体験を喜んでくれた様子でした。

「来年もお願い」という声をたくさん頂いたので、催しを継続し厚木の鮎をＰＲしながらまちの活性化につなげていきたいと思っています。

厚木鮎つかみ取り組合 組合長
**濁川 謙二**さん

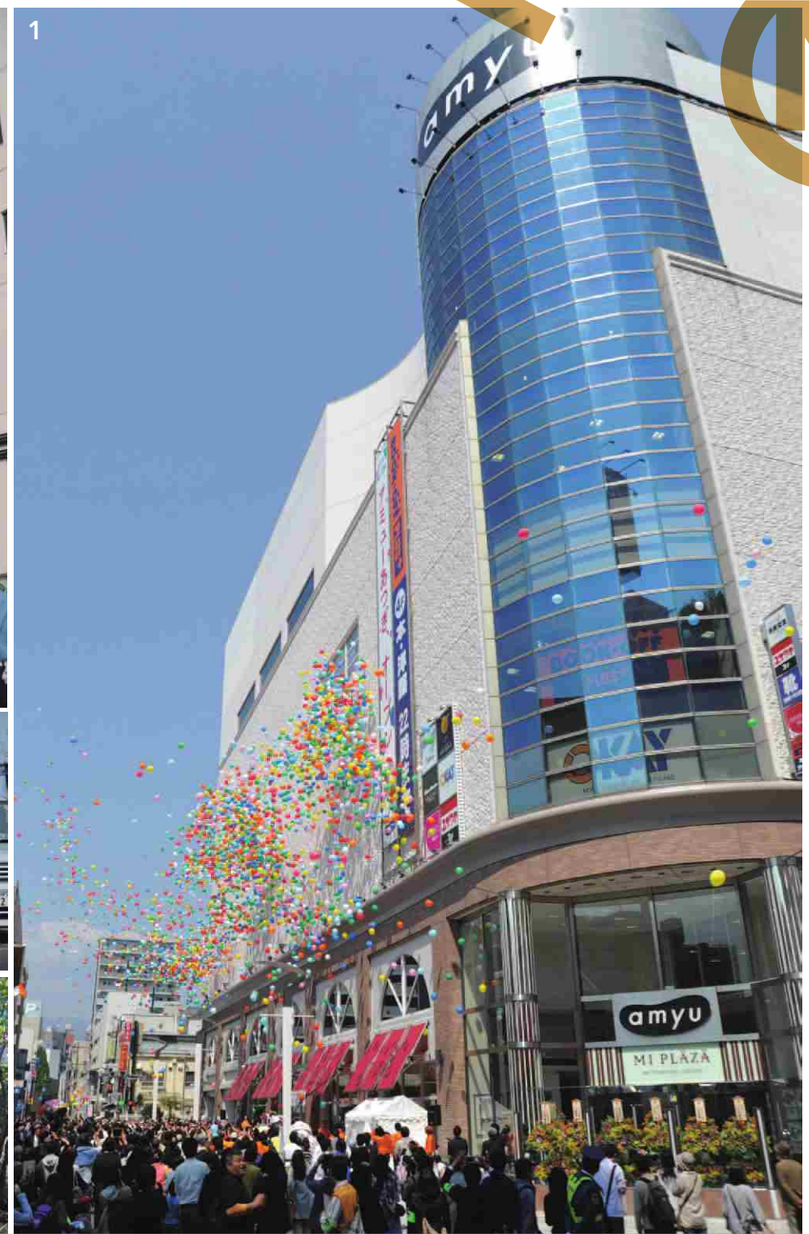
**1. ハイキング**：自然に恵まれた厚木には気軽に楽しめるハイキングコースが多く、市外からもたくさんのハイカーが訪れます **2. 鮎釣り**：昔から鮎釣りが盛んだった相模川。6月の鮎釣り解禁を迎えると、多くの太公望たちが「ころがし釣り」を楽しみます **3. 滑り岩（なめりいわ）でのロッククライミング**：関東有数のクライミングスポットとして知られ、多くのクライマーが訪れます。毎年、クライマーと地域住民が一緒に岩場の清掃も実施しています **4. ぼうさいの丘公園**：防災機能を備えると同時に、多彩な遊具や小動物園もあり多くの家族連れでにぎわっています **5. バーベキュー**：相模川河川敷・三川合流点ではバーベキューを楽しむ家族連れやグループの姿が多く見られます **6. トレイルランニング**：ハイキングコースが整った厚木の里山では、トレイルランニングも盛ん **7. 荻野運動公園**：運動施設で汗を流す人はもちろん、野草園などもあり散策も楽しめます。春には菜の花、秋にはコスモスが花を咲かせます **8. 東丹沢七沢・飯山温泉郷**：美肌の湯として知られる厚木の温泉郷。ハイキングや森林浴などで汗を流した後は温泉が最高です

# 豊かな自然の恵みを受け 共に生きる、ふるさと厚木

神奈川の屋根と呼ばれる丹沢山塊に育まれた緑と清流、
古（いにしえ）の時代から人々の心と体に癒しを与えてくれている温泉。
ふるさと厚木は、自然の恵みを心ゆくまで堪能できるまちです。

### Blessings of nature

There are the Tanzawa Mountains called the roof of Kanagawa , with both greener y and fresh streams, and hot springs to heal mind and body. since ancient times.
You can enjoy blessings of nature to your hear t's content in Atsugi city , our hometown.




1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

# 人が交わり笑顔が広がる、魅力あふれるまち

多くの人たちが集い、交流することからエネルギーが広がっていく、厚木のまち。
豊かな自然や発展した交通網を生かし、誰もが明るく元気で幸せに暮らすことができる
まちづくりを市民協働で進めています。

**Town Planning**

When many people gather, energy spreads through interaction- this is Atsugi City.
We are promoting town development to live happily and stay healthy through civic collaboration
by taking advantage of the richness of nature and developed transportation network.

**1. アミューあつぎ**：中心市街地のにぎわいを創出する拠点として2014年４月にグランドオープン。商業施設と文化・芸術、生涯学習、子育て支援施設を備えた、幅広い世代が交流できる官民複合施設です **2. セーフコミュニティ**：ＷＨＯ（世界保健機関）が推奨するセーフコミュニティの認証を国内で３番目に取得。事故やけがのない安心安全なまちづくりを、市民協働で進めています **3. 愛の目運動**：地域の皆さんが子どもたちの登下校を見守る運動が、市内各地で展開されています **4. 山岳救助訓練**：災害や遭難事故などから市民の命を守るための備えを充実させています **5. 託児室「わたぐも」**：アミューあつぎ内への託児室設置など、子育てしやすい環境が整備されています **6. 厚木市・日産自動車グリーンモビリティ・プロジェクト**：「超小型モビリティ」の実用化に向けた実証実験などが進んでいます **7. 圏央厚木インターチェンジ**：高規格幹線道路などの広域ネットワークの形成により利便性の飛躍的な向上が見込まれます **8. スポーツなじみＤＡＹ**：気軽にスポーツに親しめる催しが数多く開かれています **9. ミニデイサービス**：高齢者の皆さんに元気で生き生きと暮らしてもらうためのサービスが充実しています **10. 里山マルチライフプラン**：豊かな里地里山を未来へ引き継ぐため、七沢・荻野で市民を交えた稲作体験などが開かれています

## 「地域との共生」を大切に

日産自動車は1981年、厚木市の岡津古久にテクニカルセンターを開設し、市や地域の住民の皆さんと関わりを持ちながら企業活動を続けてきました。2013年11月には「厚木市・日産自動車グリーンモビリティ・プロジェクト」を締結し、超小型電気自動車の実証実験などに取り組んでいるほか、小学校でエコカーの仕組みを通して環境教育を行う「わくわくエコスクール」も好評を頂いています。

私たちはこれからも「地域との共生」を大切にし、皆さんに「あってよかった」と感じていただける企業であり続けたいと考えています。

日産自動車株式会社
R＆D総務
ファシリティマネージメント部

# 恵み豊かな命の営みとともに

## Nature

In Atsugi City, there is a diverse, rich natural environment with mountainous places like the Tanzawa Oyama Mountain, the traditional satoyama villages, Sagami River, and Nakatsu River. In these places, the lives of the many plants and animals there are one of the charms of Atsugi City.

学芸員　**吉田 文雄**さん

よしだ ふみお　1943年生まれ。飯山在住。1993年から「広報あつぎ」で市内に生息する動植物の営みを記した「自然歳時記」を連載中。県立足柄ふれあいの村学芸員。自然観察指導員。1級ビオトープ施工管理士。

### あつぎの自然を見守り続けて

東丹沢から広がる山林には多様な動植物が息づき、相模川を中心とした水辺には水生の植物と昆虫、魚類、鳥類が命の豊かさを感じさせる。

春には美しい野の花も咲きそろい、鳥や昆虫たちも蜜を求めてやってくる。夏の雑木林ではカブトムシを見つけた子どもたちの楽しげな声が聞こえ、水辺では飛び交うホタルの幻想的な美しさを味わえる。秋の山野ではモミジなどの木々が色鮮やかに紅葉し里山の自然が楽しめる。冬には冬鳥のほか、植物のシモバシラがつくる芸術品「氷の華」を見ることができる。

厚木市は豊かな自然と先人の創り上げた文化が融合したまち。都市開発が進んでいく中で、厚木市の60年を見ながら自然と共生できるまちであってほしいと願う。

金剛寺木造阿弥陀如来坐像
（国指定重要文化財／飯山5456）



金剛寺木造地蔵菩薩坐像
（県指定重要文化財／飯山5456）

相模人形芝居
（国指定重要無形民俗文化財／長谷座・林座）

本照寺鰐口
（県指定重要文化財／下古沢130）

登山一号墳出土埴輪
（県指定重要文化財／寿町3-15-26）

飯山長谷寺銅鐘
（県指定重要文化財／飯山5605）

妻田のクスノキ
（県指定天然記念物／妻田西3-17-32）

松石寺の寺林
（県指定天然記念物／上荻野4227-1外）

法雲寺木造不動明王立像
（県指定重要文化財／酒井2471）

本禅寺本堂
（県指定重要文化財／飯山3515）

荻野神社本殿・拝殿
（県指定重要文化財／上荻野1-イ）

相模のささら踊り
（県指定無形民俗文化財／長谷・愛甲）

### 楽しみながら伝統を後世へ

相模人形芝居は、江戸時代にこの地域に伝わり、今日まで受け継がれてきた民俗芸能です。一体の人形を三人で操るところに特徴があり、息を合わせて“三位一体”の操作ができたときの面白さは格別です。

厚木市には相模人形芝居の他にも貴重な郷土芸能がたくさんあります。継承という共通の課題は抱えていますが、後世へ伝えていくという強い気持ちは皆が持っています。

郷土芸能は本来地域の娯楽です。私たちも楽しみながら、地元の皆さんに喜んでもらえるよう地域に根差した活動を続けていきます。

相模人形芝居林座 座長　**山戸 アサ子**さん

# 悠久の時を刻む、歴史と文化

歴史を伝える建造物や数百年の樹齢を誇る天然記念物。
江戸時代、交通の要として多くの人々の交流により花開いた、多種多様な文化。
悠久の時と共に刻んできた文化財は、今も人々の暮らしのすぐそばにあります。

## Cultural Properties with eternal history

There are historic buildings and natural monuments such as hundreds of year-old-trees. In the Edo Period, as Atsugi was a cornerstone of transit, there were exchanges between so many people and a diverse culture flourished. Through the passage of eternity, cultural heritage is even now close to our life.

イベントの司会も務めた五十嵐さん

本番直前まで続いた衣装作成

アニメのキャラクターや魔女などに扮した市民が厚木一番街を大行進

市民リポーターが総力取材

## 市街地のにぎわいづくりに挑む

# まちなか活性化プロジェクト

## まちに活力を吹き込む人々

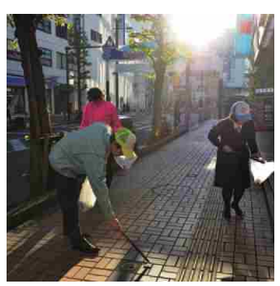
厚木の中心市街地のにぎわいづくりに取り組む「まちなか活性化プロジェクト」（下欄参照）。「アミューあつぎができて人通りが増えている。この勢いでかつてのにぎわいを取り戻したい」と力強く話す会長の六ヶ村健三さんを中心に、市街地で多彩な催しを企画しています。

中でも力を入れているのが美化清掃と青春劇場です。「人に来てもらうには、きれいで安全な環境が必要」と商店会のメンバーなどが長年、毎週金曜日に道路や公園などでごみ拾いを続けています。

青春劇場は、アミューあつぎ9階の「ホール112」に移り、毎月落語会とカラオケ大会を開催。取材に伺った時は、市内の愛好家やゲスト歌手が来場者と一体となり、ステージは大盛況でした。私たち主婦が夕方の買い物前に来場しやすい時間設定にするなど、随所に工夫を凝らしていることにも驚きました。六ヶ村会長は「会場が広くなり一層好評を得ている。カラオケと落語以外にも郷土芸能やコンサートなど、老若男女によるさまざまな文化活動の発表の場にしていきたい」と話してくださり、「市街地に人を呼び込もう」という強い思いを感じました。

にぎわいづくりへの思いを語る六ヶ村会長

二つ目の落語家を招く落語会


毎週金曜に市街地でごみ拾いを実施

### まちなか活性化プロジェクト

商店会のメンバーや学識経験者20人で構成。2007年に発足した「市街地にぎわい懇話会」からアミューあつぎの完成に合わせて組織をリニューアルしました。市街地のにぎわい創出を目的に、美化清掃やにぎわいアドベンチャー隊の任命、青春劇場・ジャズナイト・イルミネーション・本厚木駅周辺の将来のビジョンを検討する会議などを開催しています。

「大学生ならではの発想や行動力で街に新風を吹き込んでほしい」と六ヶ村会長が期待をかけるのは、まちなか活性化プロジェクトが任命する「にぎわいアドベンチャー隊」です（下欄参照）。取材でお邪魔したのは、パレードやスタンプラリーを実施する「あつぎハロウィーン」。4カ月間にわたり、内容の話し合いや衣装作りなどの準備を進めてきました。リーダーを務めた五十嵐愛里さん（松蔭大）は「他大学の学生との共同作業はとても新鮮で、人間関係も広げられた」と喜んでいました。

迎えた本番。パレードは最後尾が見えないほどの人出で、参加した親子連れは思い思いに仮装を楽しんでいる様子。商店街の皆さんは「お店を知ってもらうきっかけになった」とイベントの開催を歓迎していました。催しを終えたメンバーは「イベントを企画する大変さを体験できた」「仲間と力を合わせる喜びを感じた」と目を輝かせて話してくれました。

「楽しいイベントは街を盛り上げてくれる。これからは週末の市街地でいつも何かの催しが行われているような街にしていきたい」と意気込む六ヶ村会長。「人のために尽くして喜んでもらえることが一番うれしいんだ」と最後に優しい笑顔で語ってくれました。私もまちづくりに携わる市民の一人として、果敢に行動することの大切さを教わりました。

毎年30人前後がメンバーに

### にぎわいアドベンチャー隊

まちのにぎわい創出、市街地の活性化を目指し、市内5大学（神奈川工科大、松蔭大、湘北短期大、東京工芸大、東京農業大）の学生で2007年に結成。まちなか活性化プロジェクトと学生などが協働し、年間を通じて話題性のあるイベントなどを企画・運営しながら、まちづくりの活動や芸術・食文化などの情報発信に取り組んでいます。

私が聞きました

市民リポーター
**室田 陽子**

1970年生まれ。戸室在住。2014年から市民リポーターを務める。厚木の好きなところは、子育て世帯に優しいさまざまな制度が整っているところ

B-1グランプリでゴールドグランプリを獲得

中村隊長（左）、小野塚副隊長と記念撮影

## 食を通じて厚木の魅力を発信

# 厚木シロコロ・ホルモン探検隊

イベント会場に着くと、ひと際食欲をそそる香りを漂わせるお店が。心待ちに列を成すお客さんをたどると、「厚木シロコロ・ホルモン探検隊」（下欄参照）の皆さんが一生懸命にシロコロを焼いていました。

2008年の「B-1グランプリ」優勝で厚木の名を全国に広めた探検隊。巻き起こったシロコロブームは、2010年の厚木大会の開催にもつながりました。43万人以上が詰めかけた厚木大会の経済波及効果は36億円に上り、私たち市民にも強いインパクトを残しました。この間、隊長の中村さんや副隊長の小野塚さんは、取材や視察に追われる日々。「身近な食材であるシロコロという原石を磨いたらダイヤだった」とお二人は感慨深げに振り返ります。

探検隊は、中村隊長の「食を通じたまちづくりをしたい」という思いから結成されました。市外で活動する時は、お客さんに「厚木で本物のシロコロを食べて」と呼び掛けているとのこと。「私たちは厚木の営業マン。外から厚木に来てもらうことが一番の目的」と中村さんは強調します。利益を上げることが目的ではなく、まちおこしのための行動だということに感銘を受けました。

探検隊の一員として、ボランティアで活動したいという若者は今でも後を絶ちません。「そんな若者や探検隊の若手を育成する『人づくり』にも、今後は力を入れていきたい」と口をそろえる中村隊長と小野塚副隊長。まちおこしへの熱い思いに触れ、生まれ育ったここ厚木への深い愛着を感じました。

市のあつぎ元気大使にも委嘱されている

**厚木シロコロ・ホルモン探検隊**

2005年に商店会連合会の街づくり推進プロジェクト・チームとしてスタート。2007年に名称を現在の名に改め、「B-1グランプリ」に参戦しました。2008年の久留米大会で優勝し、「厚木シロコロ・ホルモン」の名を全国区にした立役者。現在も多数のイベントに出店するなど、食文化を通じたまちづくりに取り組んでいます。スナック菓子やストラップなど関連グッズ多数。

私が聞きました
市民リポーター
**渡嘉敷 愛奈**

1979年生まれ。森の里在住。2008年から市民リポーターを務めるほか、市内のイベントの司会もこなす。厚木の好きなところは、美しい自然と市民の活気があふれているところ

市民リポーターが総力取材
**まちに活力を吹き込む人々**

## あつぎものづくりブランドプロジェクト

# ATSUMO（アツモ）への期待

ロボットと言えば、50年ほど前にテレビアニメ「鉄腕アトム」が人気となり、人間と同じような動きをするロボットの誕生が期待されていました。そして、2014年4月のアミューあつぎのオープニングの時、私たち厚木市民の前にもついに、等身大二足歩行ロボットが姿を現しました。市のマスコットキャラクターあゆコロちゃんの顔をした「ロボコロ」です。製作したのは、あつぎものづくりブランドプロジェクト「ATSUMO」（下欄参照）。産学公が連携し厚木市のものづくりの力を発信する組織です。会長の中村幹夫さんと、開発を担当した岡本正行さんに話を聞くと、ロボコロはプロジェクトの始動からわずか10カ月で完成させたとのこと。市内企業の技術力の高さと、メンバーの開発に懸ける強い思いを感じました。

アミューあつぎのオープニングとあつぎ鮎まつりの開会式の時、私は市民リポーターとして会場を訪れていました。ロボコロを目にした市民の皆さんからは「わぁ～、かわいい」などの声が上がり、関心の高さがうかがえました。会長の中村さんは「ロボコロをもっと進化させ、厚木のものづくりを発信していきたい」、岡本さんは「2020年の東京オリンピックでは、ロボットの聖火ランナーを実現させたい」とこれからの目標を話してくれました。

市内には優れた技術を持つ企業が多くあります。ATSUMOの活動を通じて厚木のものづくりの魅力が広がり、明日のまちおこしにつながっていくことに期待が膨らみます。

アミューあつぎのオープニングイベントで市民の前に初登場

鮎まつりのオープニングパレードでは約150m を完歩

**ATSUMO**

「あつぎものづくりブランド」の価値向上や地域経済の振興、人材育成などを目的に市内の中小企業など約30社で結成。市や県、神奈川工科大、東京工芸大がオブザーバーとして携わります。全国的にも珍しい等身大二足歩行ロボット「ロボコロ」を通じて、厚木市のものづくり産業のポテンシャルを全国に向けて発信しています。

私が聞きました
市民リポーター
**大坪 政文**

1947年生まれ。中町在住。2014年から市民リポーターとして、リポートやカメラマンを務める。厚木の好きなところは年間を通して多彩なイベントが楽しめるところ

60 years
Evolution of Atsugi

## 厚木市進化の60年記

# 幕末～昭和30年代

### 厚木市の始動期1868年～1964年

縄文時代から人々が定住し、江戸時代には宿場町、各種産業、生産物の交易の場として盛況を極めました。関東大震災で大きな被害を受けましたが、これを機に街並みも一新。さらに、小田急線新宿～小田原間の開通により京浜方面への往来も活発になり、相模地区の要の地域としてにぎわいました。1955年に厚木市が誕生。1964年の国道246号（東京～沼津）の全線開通に伴い、さらなる発展に向け始動しました。

### Era of Beginning 1868 - 1964

People had settled since the Jomon period, and during the Edo era, our area was extremely successful as a post town and a place of industry and trading. It was severely damaged in the Great Kanto Earthquake, but this was used as an opportunity to redesign the town.
In addition, the opening of the Odakyu Line between Shinjuku and Odawara enabled the traffic increase to the Keihin direction, the town thrived as a regional cornerstone of the Sagami Area.
Atsugi City was born in 1955.Further development began with the opening of the entire line of the National Highway 246 (Tokyo to Numazu) in 1964.

Pick UP

### 厚木市の「いま」を発信する「広報あつぎ」

「厚木市はどんなことに取り組んでいるのか」「どんなイベントが開催されるか」など、市民の皆さんに市政やまちの話題を届けている『広報あつぎ』。この広報紙は、市が誕生した翌年の1956年に『厚木市政だより』として創刊されました。翌年には現在のタブロイド判に変更され、1971年から毎月２回発行となり、2015年2月1日発行号は1200号となります。約60年にわたり、市のお知らせや魅力ある厚木の姿を発信しています。

厚木市政だより
明るい市政の建設
「市政だより」発刊にあたり
市政だより発刊によせて

F・ベアト撮影　厚木の街並み（幕末頃）

本厚木駅舎（1946年頃）

本厚木駅北口広場（昭和30年頃）

菁莪（せいが）小学校　青空教室

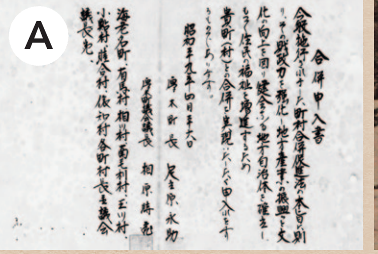
B 合併後の市議会の様子（1955年）

厚木の街並み

相模川の砂利船

F・ベアトが撮影した飯山「VIEW AT EIYAMA」（幕末から明治初期）

相模川（昭和初期）


A
合併申入書

| 西暦 | 和暦 | 出来事 |
|---|---|---|
| 1868 | （明治元年） | 荻野山中藩士、脱藩士松下祐信ら箱根戦争で活躍 |
| 1871 | （明治4年） | 荻野山中県等小県を廃止。小田原県、韮山県と合わさり足柄県に |
| 1872 | （明治5年） | 厚木に郵便取扱所が開所 |
| 1873 | （明治6年） | 現市内に小学校が創立（校数18） |
| 1876 | （明治9年） | 足柄県を廃止。神奈川県に編入 |
| 1878 | （明治11年） | 愛甲郡役所を厚木町に設置 |
| 1881 | （明治14年） | 明治天皇行幸 |
| 1889 | （明治22年） | 町村合併で1町35カ村が厚木町および12カ村に |
| 1902 | （明治35年） | 県立第三中学校（現厚木高校）が開校 |
| 1908 | （明治41年） | 相模橋（木橋）開通 |
| 1912 | （大正元年） | 厚木町に電灯がつく |
| 1913 | （大正2年） | 相模橋（鉄骨つり橋）開通 |
| 1919 | （大正8年） | 厚木・平塚間乗合自動車が開通 |
| 1921 | （大正10年） | 厚木・横浜間乗合自動車が開通 |
| 1922 | （大正11年） | 厚木町に繭糸取引所が設立 |
| 1923 | （大正12年） | 関東大震災で大被害を受ける<br>厚木・藤沢間乗合自動車が開通 |
| 1926 | （大正15年） | 神中鉄道（厚木～横浜間）、相模鉄道（厚木～茅ヶ崎間）の一部が開通 |
| 1927 | （昭和2年） | 小田原急行鉄道開通「相模厚木駅」（現本厚木駅）設置 |
| 1941 | （昭和16年） | 市内全小学校が国民学校と改称 |
| 1945 | （昭和20年） | B29 500機、厚木上空を通過し、横浜を空襲 |
| 1946 | （昭和21年） | 三田村、妻田村などが合併し、睦合村ができる |
| 1947 | （昭和22年） | 市内国民学校が小学校となる<br>市内に中学校8校が創立<br>各町村警防団が消防団となる |
| 1948 | （昭和23年） | 厚木商工会議所設立 |
| 1949 | （昭和24年） | 厚木電報電話局新設 |
| 1951 | （昭和26年） | 県立厚木病院開院 |
| 1954 | （昭和29年） | 厚木町が周辺村に合併申し入れ A |
| 1955 | （昭和30年） | 2月 厚木町、南毛利村、睦合村、小鮎村、玉川村が合併し、県下13番目の市として厚木市が誕生 B<br>6月 相模大橋開通<br>7月 相川村、依知村を編入 |
| 1956 | （昭和31年） | 2月 市政だより（現広報あつぎ）第1号発行…Pick UP<br>9月 荻野村を編入 |
| 1957 | （昭和32年） | 9月 元町河川敷に総合グラウンド（現市営厚木球場、市営水泳プール）が完成 |
| 1958 | （昭和33年） | 9月 広報活動充実のため、広報車を購入<br>台風21・22号相次いで襲来し、各地に被害 |
| 1959 | （昭和34年） | 2月 市内に初めてガス会社ができる<br>12月 第1回厚木市農業まつりを開催 |
| 1960 | （昭和35年） | 3月 工場誘致条例を制定 |
| 1961 | （昭和36年） | 8月 清掃事業の効率化を図るため、三輪ダンプ車を購入 |
| 1962 | （昭和37年） | 10月 5万人目の市民誕生 |
| 1963 | （昭和38年） | 4月 厚木市消防本部、厚木市消防署を設置 |
| 1964 | （昭和39年） | 8月 国道246号（東京～沼津）が全線開通<br>10月 東京オリンピック聖火リレーが県内を通過（厚木高校陸上部の生徒が市代表で参加） |

60 years Evolution of Atsugi

厚木市進化の60年記

# 昭和40年〜60年代

## 厚木市の成長期1965年〜1988年

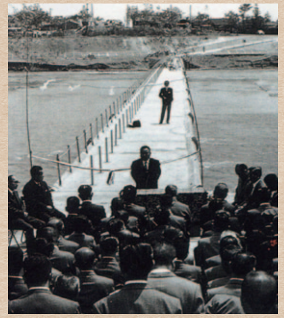
1968年の東名高速道路厚木インターチェンジの開設は、厚木市の成長に大きな影響を与えました。これにより、首都圏南西部の陸上交通の要衝として、産業経済が発展。その後、急速な都市化の進展に伴い、道路、学校をはじめとする都市基盤の整備が進みました。1970年代以降は、小田急線本厚木駅周辺の整備により、一層交通利便性が向上。自然と調和した研究開発型企業の拠点となるなど、多機能を有する都市として成長しました。

### Era of Growth 1965 – 1988

The opening of the Atsugi Interchange of Tomei Expressway in 1968 had a significant impact on the growth of Atsugi City. This led the development of the industries and economies as a strategic point of land transportation in the southwest metropolitan area.
Then, with the development of rapid urbanization, urban infrastructure was upgraded including roads and schools.
Since the 1970 s, through the development of the area around Hon-Atsugi Station on the Odakyu Line, traffic convenience was further improved.
This encouraged our city as a center the research and development industry in harmony with nature, and Atsugi has grown into a city with multiple functions.

### Pick UP もぐり橋

もぐり橋は、1966年から1996年までの30年間、厚木市と海老名市を結んでいた相模小橋の通称。現在のあゆみ橋の南側に架かっていました。通称の由来は、増水すると、水中にもぐって通行できなくなってしまうことから。実際、大きな台風に流されてしまうこともあり、その時は厚木市と海老名市で整備費用を交替で負担していました。自動車の転落事故が起きてしまうなどの理由で、1996年にあゆみ橋に架け替えられました。



A 第1回市民マラソン（1970年12月6日）

B 第1回市民朝市（1974年）

C 本厚木駅南口

D 文化会館落成記念式典（1978年）

第32回鮎まつり（1978年）

E 厚木シティプラザ全館オープン（1985年）

### 1965（昭和40年）
- 6月 6万人目の市民誕生

### 1966（昭和41年）
- 3月 上古沢にごみ焼却場が完成
- 5月 昭和橋開通
- 6月 もぐり橋開通（Pick UP）

### 1967（昭和42年）
- 2月 県下のトップを切って市交通災害共済制度を実施

### 1968（昭和43年）
- 3月 7万人目の市民誕生
- 4月 東名高速道路東京〜厚木間が開通

### 1969（昭和44年）
- 3月 国道271号（小田原厚木道路）開通
- 8月 新国道129号（通称厚木バイパス）が開通

### 1970（昭和45年）
- 4月 8万人目の市民誕生
- 11月 第1回産業まつりを開催
- 12月 市庁舎が完成 第1回市民マラソンを開催 A

### 1972（昭和47年）
- 1月 一番街で歩行者天国開始
- 2月 9万人目の市民誕生
- 7月 寿町3丁目に消防新庁舎が完成

### 1973（昭和48年）
- 9月 10万人目の市民誕生
- 10月 市子ども広報第1号発行

### 1974（昭和49年）
- 3月 環境整備工場（ごみ焼却場）が完成
- 7月 新設戸室小学校用地内に弥生・古墳時代の住居跡が発見され、遺跡発掘が始まる
- 11月 県内トップを切って第1回市民朝市を開催 B

### 1975（昭和50年）
- 3月 不燃物処理場が完成
- 7月 環境保全公社発足

### 1976（昭和51年）
- 2月 11万人目の市民誕生
- 6月 小田急線本厚木駅の新駅舎が完成 C

### 1977（昭和52年）
- 1月 本厚木駅に市役所駅連絡所を開設
- 4月 国道129号厚相バイパス開通
- 12月 12万人目の市民誕生

### 1978（昭和53年）
- 4月 老人福祉センターがオープン
- 11月 文化会館オープン D

### 1979（昭和54年）
- 3月 13万人目の市民誕生
- 9月 休日夜間診療所がスタート

### 1980（昭和55年）
- 1月 南部学校給食センター完成
- 3月 14万人目の市民誕生
- 9月 第1回あつぎ商工観光まつりを開催

### 1981（昭和56年）
- 6月 15万人目の市民誕生

### 1982（昭和57年）
- 3月 小田急線本厚木駅ビルが完成
- 11月 16万人目の市民誕生
- 12月 婦人会館（旧あつぎパートナーセンター）・保健センターがオープン

### 1983（昭和58年）
- 5月 米国・ニューブリテン市と友好都市を締結

### 1984（昭和59年）
- 9月 17万人目の市民誕生
- 10月 地下道、バスセンター完成 中国・揚州市と友好都市を締結
- 12月 勤労福祉会館、ヤングコミュニティセンターがオープン

### 1985（昭和60年）
- 1月 市制施行30周年記念県央厚木駅伝競走大会開催
- 2月 厚木シティプラザ全館オープン E
- 3月 『厚木市史』地形地質編・原始編発刊
- 4月 厚木サンパークがオープン
- 5月 秋田県・横手市と友好都市を締結
- 10月 市制施行30周年記念厚木マラソン大会開催

### 1986（昭和61年）
- 9月 18万人目の市民誕生

### 1987（昭和62年）
- 6月 七沢自然教室オープン
- 11月 ゴミ焼却施設環境センター完成

### 1988（昭和63年）
- 3月 中央図書館が図書館叢書第1集「和田傳 生涯と文学」を発行